

天理大学 ふるさと会 海外研修報告書

～海外と日本の柔道に対する価値観の違いに触れる～



体育学部体育学科武道コース 4 回生門田優吾

はじめに

- 1.オーストラリアでの活動内容 ～日本柔道との比較～
- 2.オーストラリア観光地めぐり
- 3.お世話になったホームステイ先の家族と Ohori Judo Club の方々

おわりに

はじめに

この度は、ふるさと会海外研修に採用していただき、ありがとうございました。また、研修計画・研修準備をするにあたって、協力して下さった多くの先生にも感謝をしています。この研修を実現することができたのは、多くの人が私のために尽力をして下さったからだ実感しています。本当にありがとうございました。

私は、2022年8月12日から9月16日まで、オーストラリア クイーンズランド州 ブリスベンにある Ohori Judo Club で研修をさせていただきました。Ohori Judo Club では、月曜日・水曜日・木曜日の夕方から夜にかけてのクラスと、土曜日の午前中のクラスがあり、研修期間は全てのクラスに参加させていただきました。また、火曜日・金曜日には、同じくブリスベンにある Shin Gi Tai Judo Club と Shougun Hills Judo Club に出稽古に行かせていただきました。オーストラリアの練習は、どこの道場もキッズクラス・ジュニアクラス・シニアクラスとクラス分けがされていて、さらにその中でも趣味程度のクラスや試合向けのクラスなどがありました。クラスやそのクラスの目標に応じて、指導方法が違っただけでなく、練習内容も全く違ったため、毎日学ぶことが本当に多くありました。

また、卒業論文でのテーマ『日本柔道と海外柔道の価値観の違いについて』にも関わるアンケート調査も実施させていただくことができました。



写真はお世話になったホームステイ先の家族と Ohori Judo Club の方たち

1. オーストラリアでの活動内容 ～日本柔道との比較～

私がオーストラリアでの研修期間で行った活動は、主に海外で柔道を指導するための指導方法の習得です。日本で柔道をする時と比較しながら活動をすることで、たくさんのことに気が付くことができました。

スポーツの本質に気付かされた1週目

1週目は、全体の活動を把握するために全てのクラスに参加し、みんなと一緒に練習をさせていただきました。この時に1番強く印象に残ったことは、みんなが柔道を好きで楽しそうに練習をしていることです。私自身、小さい頃から柔道をしています、あれほど楽しく柔道の練習をしたことはないと感じるほど、全員が笑顔で元気に練習をしていました。オーストラリアで柔道をしている人たちを見ていると、あまり試合で勝つことなどは考えず、まずは趣味程度でも楽しく続けることを目標としている感じがしました。私はどちらかと言うと、小さい頃から勝つために柔道をしていたような気がして、楽しむというスポーツの本質的な部分を見失っていたような気持ちになりました。改めて、スポーツの本質に気づくことができた1週目だったと感じます。

技術指導を任せてもらえた2週目

2週目は、試合向けのジュニアクラスとシニアクラスで技術指導を任せてもらうことができました。私は、日本語で説明とデモンストレーションを行い、それを道場の先生が英語に言い換えてくれることで技術指導が成り立っていました。この時に感じたことは、日本で教える時よりも具体的に説明する必要があることと、質問される箇所が日本とは違うように感じました。

例えば、手の動かし方を説明した時に、日本であれば教えてもらった動きに対して「自分のこの動きが合っているか」を聞くことが多いと思います。しかし、オーストラリアの人たちは、「この動きはどうか」とか「なんでこの動きの方が良いのか」と言う点を細かく聞



写真はデモンストレーション中の風景

いてくる印象がありました。「なぜか」と聞かれると答えにくい場面が多くあり、こんなところにも疑問を感じるのか、と学ぶことができたと同時に、今までは感覚でしていたことなので、体を動かすことはできるけど言葉で説明するのは、とても難しいなと実感しま



した。実際に私が一人一人に動きを体感してもらう方法が1番わかりやすいと思いますが、それでは時間効率があまりにも悪いので、できるだけ簡単な言葉で、みんなが理解してくれるような説明をする必要があると学ぶことが出来た2週目だったと思います。

練習をほとんど任せもらえた3週目

3週目に入ると、ウォーミングアップから技術指導まで、練習のほとんどを任せてもらえるようになりました。この頃から、できるだけ英語で説明することに挑戦をし、英語で説明することの難しさを体感すると同時に、私の拙い英語でも頑張って聞き取ろうとしてくれるみんなの温かさにも触れることができました。

日本語でさえも説明をすることの難しさを痛感した2週目から、次は英語で説明することの壁にぶつかりました。技術指導では、英語に苦戦することもありましたが、ウォーミングアップでは、みんなが楽しくしてくれたことに喜びを感じました。クラスごとに違ったウォーミングアップをしようと決めていたので、「次のクラスでは何をしよう」と考える



写真は出稽古先の Shin Gi Tai Judo Club にて

のが大変でしたが、どんな運動をしても年齢関係なく、楽しく元気に活動をしてくれるオーストラリア人の明るい性格に助けられました。この頃になると、少しずつみんなとコミュニケーションが取れるようになり、練習に行くことが楽しみになっていました。それもオーストラリア人の明るさのおかげだと感じています。練習中だけでなく、練習前や練習後にも「yugo!」と

話かけてもらえるようになり、子どもから大人までたくさんの人たちとコミュニケーションを取ることができました。どの道場に行っても歓迎してくれて、積極的に近づいてきてくれた人たちのおかげで私の英語も少しずつ上達することができたと感じています。英語での説明に苦しみながらも、要所要所で自分自身の成長を感じることができるような、そんな3週目を過ごすことができました。

全てを任せてもらえた4週目

4週目に入ると、練習の最初から最後までを英語で任されるようになりました。オーストラリアに来た頃の私から考えると、練習を全て英語で任せてもらうことはとてもハードルが高く感じますが、この頃になるとそれほどハードルが高いと感じなくなっていました。これ



れは、1週間ごとに私のできることを少しずつ増やしてくれた道場の先生のおかげだと強く感じています。全て自分で考えた練習メニューをしてもらうことは、少し不安があったけど、どんなメニューで練習をしても楽しく活動してくれたので、とてもやりやすかったです。研修期間の最終週ということもあり、できるだけたくさんの人たちと実際に練習をするように心がけましたが、全員と練習をすることは出来ませんでした。それでも、次から次へと私に練習をお願いしに来てくれる子どもたちや大人たちがいて、練習を



写真はジュニアクラス（上）とキッズクラス（下）

すれば必ず「ありがとう」と言ってくれる、本当に素晴らしいスポーツをしているなと感じることが出来ました。柔道という競技をやっていてよかったと感じながら、スポーツに言語は関係ないと実感することも出来ました。日に日に教えたことができるようになっていく子どもや、教えた技を使う大人たちを見て、私の説明を一生懸命理解して、習得しようとしてくれる

ことに指導する側の喜びを知ることができた気がしました。自分自身が海外での指導方法を習得できていることを実感することができた4週目でした。

クイーンズランド州 ステイトトレーニング

研修期間の2週目と4週目の土曜日には、クイーンズランド州のステイトトレーニングにも参加させていただきました。ステイトトレーニングとは、クイーンズランド州にある道場



場から人が集まり、練習を行う合同練習会のことです。クイーンズランド州の道場では、Ohori Judo Clubの柔道場が1番大きいため、2回ともOhori Judo Clubでの開催となりました。このステイトトレーニングでもキッズクラス・ジュニアクラス・シニアクラスとクラス分けをして開催されていました。いつもの練習よりたくさんの人の前で、技術指導をさせてもらうことが

写真はステイトトレーニングでの技術指導風景

出来たり、色々な人たちと一緒に練習をすることが出来たりして、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。私が驚いたのは、大人の参加者がとても多くいたことです。日本では、大人になってから柔道を始めるという人が多い印象はありませんが、オーストラリアでは、大人になってから柔道を始める人がたくさんいて、黒帯を目指して頑張っている人が多かった印象を受けました。大人になってからでも、何かを新しく習い始めようとするのは、オーストラリア人の性格なのかもしれないと感じました。また、オーストラリアでは、習い事を一つだけ習うというよりは、二つ三つと色々なことを同時に習うという風習があるように感じました。私自身、小さい頃から柔道だけを習ってきて、他の競技にあまり触れたことがないので、こういう環境が当たり前のオーストラリアに魅力を感じました。良い意味で頑張りすぎない、完璧を求めない、私にはそんな風に映りました。



写真はキッズクラスを指導している先生家族

2.オーストラリア観光地めぐり

私は、毎週日曜日が練習のない日だったので、ホストファミリーに観光へ連れて行ってもらったり、お世話になった道場の先生に観光に連れて行ってもらったりと、たくさんの観光地に行くことが出来ました。

Lone Pine Koala Sanctuary (ローンパイン・コアラ・サンクチュアリー)

まず初めに私が訪れたのは、Lone Pine Koala Sanctuary です。ここでは、コアラやカン



ガルーだけではなく、オーストラリアの動物がたくさん飼育されており、実際に触れることのできる動物もありました。私は、実際にコアラを抱っこして、写真を撮影してもらったり、カンガルーに餌をあげたりして楽しむことが出来ました。カンガルーの中にもたくさんの種類のカンガルーがいて、小さなカンガルーから、大きなカンガルーまでさまざまなカンガルーを見ることが出来ました。コアラを抱っこしてみた感想は、毛がとても柔らかいと感じたのと、想像していたよりも爪が長く鋭かったのが印象的でした。また、野生のコアラやカンガルーも多く生息しており、日常生活の中でも何度か見かけることもありました。オーストラリアでは、野生の動物を見かけることが多くあり、どの動物も日本の動物よ

写真はコアラを抱っこしている風景

り大きかったのと、それに慣れているオーストラリア人の対応に驚いたのを覚えています。道路の標識にコアラとカンガルーの飛び出し注意の標識があり、カンガルーが車に轢かれていたりするのは、オーストラリアならではの風景だと思います。

Lone Pine Koala Sanctuary の観光だけでなく、日常生活の中でもオーストラリアらしい体験と思い出を残すことができたと思います。



写真は園内で1番大きなカンガルー

ゴールドコースト観光

次に私は、ゴールドコーストにも観光に行きました。ゴールドコーストは、私が滞在していたブリスベンの隣にあるシティです。ブリスベンから、電車に乗って約1時間で行くことが出来ました。ゴールドコーストに到着してから、1番最初に驚いたことは、海の綺麗さです。

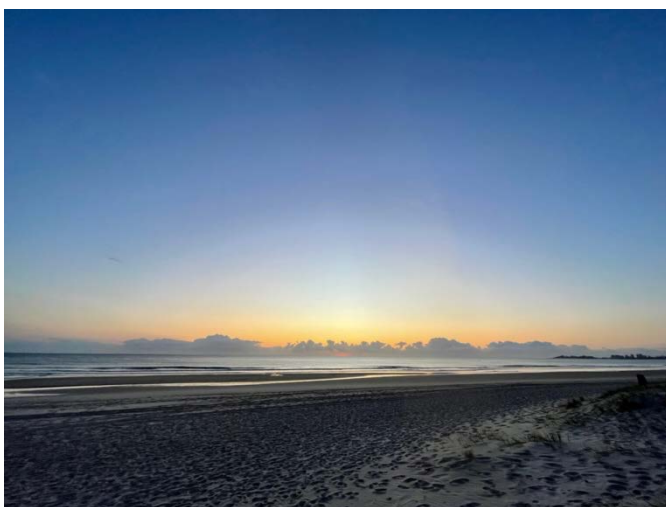


ゴールドコーストは、サーフィンの街としても知られており、たくさんのサーフィンスポットとたくさんのサーファーの人たちが海にいました。実際に私も何度か、サーフィンを体験させてもらうことが出来ました。サーフィンをしているときに近くでイルカの群れと遭遇をしたり、遠くにクジラを見ることが出来たりと、本当に貴重な経験をする事が出来たと思います。

私が行った時期は、オーストラリアの季節で考えると、冬が終わったばかりの時期だったのにも関わらず、日中は夏服の人もあるほど暖かく、朝と夜は少し冷えるように感じましたが、日本の冬の終わりの時期と比べると、とても過ごしやすかったように感じました。

また、日本人と比べてオーストラリアの人は、朝の活動開始時間が早いな、とも感じました。日の出の時間にはたくさんの人がビーチ沿いを歩いていたり、走っていたりと、運動をしている人が多い印象を受けました。サーフィンも運動の一つとして捉えられているようで、若い人から年配の人まで幅広い年齢層の人たちが朝早くからサーフィンをするためにビーチに集まっていました。

朝に運動をしてから、学校や仕事に行くという人が多く、日本と比べて健康意識が高いように感じました。逆に夜は、活動が終わる時間が早く、午後5時にはレストランなどの飲食店以外は閉まっていたように思います。夜は早く寝て、朝は早く起きる、という生活習慣からも健康意識の高さがわかれると思います。



SWELL ～SCULPTURE FESTIVAL～ 9-18 SEPTEMBER 22 CURRUMBIN BEACH QLD

ゴールドコーストにあるカランビンビーチで開催された SWELL というフェスティバルにもいきました。全ての作品が trash（ゴミ）から作られており、作品でさまざまなことが

表現されていました。この作品は購入することも可能で、たくさんの人が集まっていて、とても賑やかでした。



アルミニウムから作成された作品 ↑ ↓ →



カニを捕まえる仕掛けから作られた作品 ↑



スチールから作られた作品 ↑

3.お世話になったホームステイ先の家族と

Ohori Judo Club の方々

私がオーストラリア滞在期間中にお世話になったホームステイ先は、Ohori Judo Club の柔道場まで歩いて行くことができる距離にあるバニスター家です。バニスター家は父：スコット、母：アンジー、長男：ジャック、長女：キャリー、次男：ジミー の5人家族でした。動物も犬、猫、ニワトリを飼っていて、とても賑やかな家族でした。毎日一緒にご飯を食べたり、練習に行ったり、遊んだりと生活をしているうちに、この家族のことが大好きになりました。どこまでも明るく、温かい家族で、将来は自分もこんな家庭を築きたいと感じるほど、良い家族にホームステイとして受け入れてもらうことが出来ました。オーストラリアの家族に約1ヶ月間滞在させてもらえたことで、たくさんの文化を学ぶことが出来たり、1日の生活サイクルを体験することができたりと、日本で生活してきた私にとっては毎日が新鮮でした。3人の子どもが小学校・中学校・高校に通っていたこともあり、自分自身と比較しながら子どもたちの生活を見ていると、学校よりもプライベートを大切にする場面が多かったような気がします。日本では、学校を休みにくいような理由であってもオーストラリアの子どもたちは、行かないときは行かないし、親もそのことに対して強制をすることはなかったです。周りにどう思われるか、とか自分が休むことでどう



写真は、左からスコット・ジャック・ジミー・キャリー・アンジー

なるか、を考えるよりも自分自身の考えを優先する、そんな考え方が素敵だと感じたし、私が子どもの頃はそれが出来なかったなとも感じました。

また、家族と生活を一緒にする中で、自分自身の英語力が向上していることが実感できる瞬間が多くありました。まず最初に成長を感じたのは、リスニング力です。日常の会話が全て英語になったことで、英語を聞く時間が圧倒的に増え、日に日に言っていることが理解できるようになっていきました。自分のことを相手に伝えられるようになるまでは、



写真はホームステイ先の風景

少し時間がかかったけど日本に帰ってくる前には、みんなから英語が上手になったと言ってもらえることが出来ました。日本にいる時から、自主的に英語を勉強したり、TOEIC のテストを受けてみると、英語を積極的に勉強してきたつもりでした。

しかし、日本にいて勉強をするだけでは、身につけることが出来なかったリスニング力やコミュニケーション力を身

に付けることが出来たと思います。日常生活では、ほとんど英語に困らないと感じるようになるほど、自分の中では英語力が向上したと思うので、オーストラリアでの経験を踏まえて、これからも英語学習に積極的に取り組んでいこうと思います。

この家族に出会えたこと、この家族にホームステイすることが出来たことは、私の人生にとって、かけがえのない思い出となりました。またいつか、私がオーストラリアを訪れた時には、必ずこの家族に会いに行こうと思います。その時には、3人の子どもたちがどれだけ成長しているのか、どんな大人になっているのか、私はどんな風に成長が出来ているのか、そんなことを想像しながら、自分自身も一生懸命これからの生活を送っていきたいと思います



写真は書道に挑戦した次男：ジミー

そして、私がオーストラリアでの研修先としてお世話になった Ohori Judo Club や私の研修を実現するために尽力してくれた中村先生にも本当に感謝しています。私のことを快く迎え入れてくださり、滞在期間中にも色々な場面で気を使って下さりました。Ohori



Judo Club での1ヶ月間は、私にとって柔道に対する考え方が変わるほど、大きな経験になりました。柔道を習いに来ていた子どもたちや大人たちだけではなく、保護者方や指導者の方々のおかげで、何も困ることなく1ヶ月を過ごすことが出来たと感じています。日本語を話せる方だけでは

なく、日本語を話せない人も何かがある度に、大丈夫か、何か困っていないか、と私のために何かをしてくれようとする姿はとても嬉しかったです。Ohori Judo Club のために私が出来たこと、伝えられたことは、あまりなかったかもしれないですが、Ohori Judo Club のみんなから、私はたくさんのことを教えてもらい、学ぶことが出来たと感じています。それは、柔道に関するだけでなく、人として大切なことも気づかせてもらえたような気がします。長いようであつという間に過ぎてしまった1ヶ月間でしたが、少しでも何か Ohori Judo Club のために伝えられたことがあったなら、とても嬉しいです。私は、これからも、Ohori Judo Club を応援し続けたいと思います。何年後かに、行く機会があれば、その時は私が多くのことを教えてあげられるように、柔道家としても、人としても、成長していきたいと思っています。



写真は Ohori Judo Club の方たち

おわりに

私は現在、卒業後に JICA の海外協力隊として、海外に柔道指導をしに行きたいと考えています。しかし、海外を一度も経験したことがなかった私にとって、今年が海外を経験しておく最後のチャンスでした。ふるさと会のご支援がなければ、海外経験がないまま、海外協力隊として、海外に派遣されていたと思います。しかし、今回の研修を経て、一人で海外に行き、海外で柔道指導をする、という経験をする事が出来ました。人から聞く話や映像で見て学ぶだけでは、体験ができないたくさんのことを経験できたと感じています。この研修を通して、人としても、柔道家としても、大きく成長し、視野も広がったと思います。この経験が卒業後に考えている海外協力隊での生活に役立てられるように、これからも準備を進めていきたいと思っています。

大学生活最後の年に、このような貴重な経験をさせて下さったふるさと会には、心から感謝しています。また、この研修が実現するために尽力して下さい、先生・オーストラリアでお世話になった方々にも感謝しています。卒業後は、天理大学の卒業生として、少しでも海外で活躍できるような人間になりたいと思います。ありがとうございました。

